



CHAPTER 7

システム管理コマンド

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで使用できるシステム管理コマンドについて説明します。

clear logging nvram

NVRAM ログを消去するには、**clear logging nvram** コマンドを使用します。

clear logging nvram

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、NVRAM ログを消去する例を示します。

```
switch# clear logging nvram
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging nvram	NVRAM ログを表示します。

clear logging onboard

永続ログの OBFL エントリを消去するには、**clear logging onboard** コマンドを使用します。

clear logging onboard [environmental-history] [exception-log] [obfl-log] [stack-trace]

シンタックスの説明	
environmental-history	(任意) OBFL 環境履歴を消去します。
exception-log	(任意) OBFL 例外ログ エントリを消去します。
obfl-log	(任意) OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) を消去します。
stack-trace	(任意) OBFL スタック トレース エントリを消去します。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、OBFL 環境履歴エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard environmental-history
```

次に、OBFL 例外ログ エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard exception-log
```

次に、OBFL (boot-uptime/device-version/obfl-history) エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard obfl-log
```

次に、OBFL スタック トレース エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear logging onboard stack-trace
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging onboard	オンボード失敗ログを表示します。

clear logging session

現在のロギングセッションを消去するには、**clear logging session** コマンドを使用します。

clear logging session

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、現在のロギングセッションを消去する例を示します。

```
switch# clear logging session
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging session	ロギングセッションステータスを表示します。

clear ntp session

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) セッションを消去するには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

clear ntp session

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、進行中の NTP CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch# clear ntp session
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ntp	NTP 情報を表示します。

clear ntp statistics

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) セッションを消去するには、**clear ntp session** コマンドを使用します。

```
clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}
```

シンタックスの説明

all-peers	すべてのピア トランザクション統計情報を消去します。
io	I/O 統計情報を消去します。
local	ローカル統計情報を消去します。
memory	メモリ統計情報を消去します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)NI(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP I/O 統計情報を廃棄する例を示します。

```
switch# clear ntp statistics io
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp	NTP 情報を表示します。

logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。

コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

シンタックスの説明	<i>severity-level</i>	<p>(任意) 作成するメッセージログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
------------------	-----------------------	---

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コンソールセッションで重大度レベル 4（警告）以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 4
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。

logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのログギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}

no logging event port {link-status | trunk-status} {default | enable}

シンタックスの説明

link-status	すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージを記録します。
trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージを記録します。
default	このデフォルト ログギング設定は、明示的な設定が行われていないインターフェイスで使用されます。
enable	ポート レベルの設定を上書きしてログギングをイネーブルにします。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス イベントを記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging	ログギング ステータスを表示します。

logging event port

インターフェイス上のイベントを記録するには、**logging event port** コマンドを使用します。インターフェイス イベントのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event port {link-status | trunk-status} [default]

no logging event port {link-status | trunk-status}

シンタックスの説明

link-status	すべての UP/DOWN および CHANGE メッセージを記録します。
trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージを記録します。
default	(任意) このデフォルト ロギング設定は、明示的な設定が行われていないインターフェイスで使用されます。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス イベントを記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# logging event port link-status default
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイス設定情報を表示します。
show logging	ロギング ステータスを表示します。

logging level

指定された重大度レベルまたはそれ以上の定義済みファシリティからのロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。

定義済みファシリティからのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level *facility severity-level*

no logging level *facility severity-level*

シンタックスの説明

<i>facility</i>	適切なファシリティを定義します。ファシリティについては、「 システムメッセージ ロギング ファシリティ 」(P.7-44) を参照してください。 同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、 all ファシリティを使用します。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、重大度レベル 2 以上の AAA ファシリティからロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging level aaa 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show logging level</code>	ファシリティ ログング レベル コンフィギュレーションを表示します。

logging logfile

システム メッセージの保存に使用するログ ファイル名とログの最小重大度レベルを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。

ログ ファイルへのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]

no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]

シンタックスの説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージの保存に使用するログ ファイル名を設定します。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
<i>size bytes</i>	(任意) ファイルの最大サイズを指定します。デフォルトのサイズは 4194304 バイトで、4096 バイトから 4194304 バイトの間で設定できます。

コマンドのデフォルト

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、*logfile* と呼ばれるログ ファイルを設定してシステム メッセージを保存し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging logfile logfile 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルを表示します。

logging module

モジュール ログ メッセージをイネーブルにするには、**logging module** コマンドを使用します。指定した重大度レベルを設定するか、デフォルトのレベルを使用します。

モジュール ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module

シンタックスの説明

severity-level

(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。

- **0**—emergency : システムが使用できない
- **1**—alert : 迅速な対処が必要
- **2**—critical : クリティカルな状態
- **3**—error : エラーの状態
- **4**—warning : 警告の状態
- **5**—notification : 通常であるが重大な状態 (デフォルト レベル)
- **6**—informational : 情報メッセージだけ
- **7**—debugging : デバッグ中にだけ表示

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モジュール ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging module
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging module	モジュール ロギング ステータスを表示します。

logging monitor

デバイスでモニタ（端末回線）のメッセージ ログをイネーブルにするには、**logging monitor** コマンドを使用します。この設定は、Telnet セッションと SSH セッションに適用されます。

モニタ ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging monitor [*severity-level*]

no logging monitor

シンタックスの説明

severity-level

（任意）作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。

- **0**—emergency : システムが使用できない
- **1**—alert : 迅速な対処が必要
- **2**—critical : クリティカルな状態（デフォルト レベル）
- **3**—error : エラーの状態
- **4**—warning : 警告の状態
- **5**—notification : 通常であるが重大な状態
- **6**—informational : 情報メッセージだけ
- **7**—debugging : デバッグ中にだけ表示

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、モニタ ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# logging monitor
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging monitor	モニタ ロギングのステータスを表示します。

logging server

指定したホスト名または Internet Protocol Version 4 (IPv4; インターネット プロトコル バージョン 4) /Internet Protocol Version 6 (IPv6; インターネット プロトコル バージョン 6) アドレスのリモート Syslog サーバを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。

リモート Syslog サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host [severity-level] [facility {auth | authpriv | cron | daemon | ftp | kernel
| local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news |
syslog | user | uucp} ]
```

```
no logging server host
```

シンタックスの説明

<i>host</i>	リモート Syslog サーバのホスト名または IPv4/IPv6 アドレスを設定します。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
<i>facility facility</i>	(任意) 適切な発信 ファシリティを定義します。ファシリティは「 システムメッセージ ロギング ファシリティ 」セクションに一覧されています。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。

コマンドのデフォルト

デフォルトの発信ファシリティは **local7** です。

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server 172.28.254.253
```

■ logging server

次に、重大度レベル 5 以上の指定したホスト名のリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# logging server syslogA 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging server	設定された Syslog サーバを表示します。

logging timestamp

ロギングタイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。デフォルトでは、単位は秒です。

ロギングタイムスタンプの単位をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

シンタックスの説明

microseconds milliseconds seconds	ロギングタイムスタンプに使用する単位を選択します。デフォルトの単位は seconds です。
--	---

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ロギングタイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# logging timestamp microseconds
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging timestamp	ロギングタイムスタンプコンフィギュレーションを表示します。

ntp

スイッチの NTP ピアおよび NTP サーバを設定するには、**ntp** コマンドを使用します。設定済みのピアおよびサーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp {peer hostname | server hostname} [prefer] [use-vrf vrf-name]
```

```
no ntp {peer hostname | server hostname}
```

シンタックスの説明

peer hostname	NTP ピアのホスト名または IP アドレス。
server hostname	NTP サーバのホスト名または IP アドレス。
prefer	(任意) このピア/サーバを優先ピア/サーバに指定します。
use-vrf vrf-name	(任意) このピア/サーバに到達するために使用される Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよびフォワーディング) を指定します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N1(1)	キーワード vrf がキーワード use-vrf に置き換えられました。キーワード vrf は、上位互換のために残されています。

例

次に、サーバとのサーバアソシエーションを作成する例を示します。

```
switch(config)# ntp server ntp.cisco.com
```

複数のアソシエーションを指定できます。次に、ピアとのピアアソシエーションを作成する例を示します。

```
switch(config)# ntp peer 10.20.10.0
```

次に、ピアとのアソシエーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# no ntp peer 10.20.10.0
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp abort

進行中のネットワーク タイム プロトコル (NTP) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、**ntp abort** コマンドを使用します。

ntp abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、進行中の NTP CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# ntp abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
	show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp commit

ファブリック内で進行中のネットワーク タイム プロトコル (NTP) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関する未決定コンフィギュレーションを適用するには、**ntp commit** コマンドを使用します。

ntp commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、アクティブ NTP コンフィギュレーションへの変更を確定する例を示します。

```
switch(config)# ntp commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
	show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp distribute

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) の Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**ntp distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

ntp distribute

no ntp distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**ntp commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例 次に、アクティブ NTP コンフィギュレーションをファブリックに配信する例を示します。

```
switch(config)# ntp distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp commit	NTP コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
	show ntp	NTP 情報を表示します。

ntp sync-retry

設定されている NTP サーバとの同期を再試行するには、**ntp sync-retry** コマンドを使用します。

ntp sync-retry

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、設定されている NTP サーバとの同期を再試行する例を示します。

```
switch# ntp sync-retry
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp distribute	NTP の CFS 配信をイネーブルにします。
	show ntp	NTP 情報を表示します。

show logging console

コンソール ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging console** コマンドを使用します。

show logging console

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コンソール ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging console
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging console	コンソールにロギングを設定します。

show logging info

ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging info** コマンドを使用します。

show logging info

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging info
```


show logging last

ログファイルの末尾から指定数の行を表示するには、**show logging last** コマンドを使用します。

show logging last *number*

シンタックスの説明	<i>number</i>	表示する行数を 1 から 9999 の範囲で入力します。
コマンドのデフォルト	なし	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ログ ファイルの最後の 42 行を表示する例を示します。

```
switch# show logging last 42
```

show logging level

ファシリティ ログイング重大度レベル コンフィギュレーションを表示するには、**show logging level** コマンドを使用します。

show logging level [*facility*]

シンタックスの説明

<i>facility</i>	(任意) 適切なログイングファシリティを定義します。ファシリティは「システムメッセージ ログイング ファシリティ」セクションに一覧されています。
-----------------	--

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、EtherChannel ログイング重大度レベル コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging level port-channel
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging level	ファシリティ ログイング レベルを設定します。

show logging logfile

入力した範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示するには、**show logging logfile** コマンドを使用します。終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。

```
show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd
hh:mm:ss]
```

シンタックスの説明	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="383 522 505 548">start-time</td> <td data-bbox="675 522 1500 646">(任意) 開始時刻を <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 657 488 682">end-time</td> <td data-bbox="675 657 1500 779">(任意) 終了時刻を <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。</td> </tr> </tbody> </table>	start-time	(任意) 開始時刻を <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。	end-time	(任意) 終了時刻を <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。
start-time	(任意) 開始時刻を <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。				
end-time	(任意) 終了時刻を <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> の形式で入力します。月 (<i>mmm</i>) フィールドに 3 文字を、年 (<i>yyyy</i>)、日 (<i>dd</i>) フィールドに数字を、および時刻 (<i>hh:mm:ss</i>) フィールドにコロンで区切られた数字を使用します。				
コマンドのデフォルト	なし				
コマンドモード	EXEC モード				
コマンドの履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="383 1094 488 1119">リリース</th> <th data-bbox="675 1094 773 1119">変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="383 1129 532 1155">4.0(0)N1(1a)</td> <td data-bbox="675 1129 1029 1155">このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。				
例	<p>次に、示されている範囲内でタイムスタンプが設定されているログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。</p> <pre>switch# show logging logfile start-time 2008 mar 11 12:10:00</pre>				
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="383 1455 488 1480">コマンド</th> <th data-bbox="675 1455 724 1480">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="383 1491 553 1516">logging logfile</td> <td data-bbox="675 1491 1110 1516">ログ ファイルのロギングを設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	logging logfile	ログ ファイルのロギングを設定します。
コマンド	説明				
logging logfile	ログ ファイルのロギングを設定します。				

show logging module

モジュール ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging module** コマンドを使用します。

show logging module

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、モジュール ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging module
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging module	モジュール ロギングを設定します。

show logging monitor

モニタ ロギング コンフィギュレーションを表示するには、**show logging monitor** コマンドを使用します。

show logging monitor

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、モニタ ロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging monitor	モニタにロギングを設定します。

show logging nvram

NVRAM ログのメッセージを表示するには、**show logging nvram** コマンドを使用します。

show logging nvram [*last number-lines*]

シンタックスの説明	last number-lines (任意) 表示する行数を入力します。指定した行数が表示されます。1 から 100 の範囲で指定します。				
コマンドのデフォルト	なし				
コマンドモード	EXEC モード				
コマンドの履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(0)N1(1a)</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。				

例

次に、NVRAM ログの最後の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# show logging nvram last 20
```

show logging onboard

エラーのタイプに基づいてオンボード ログング情報を表示するには、**show logging onboard** コマンドを使用します。

```
show logging onboard {boot-uptime | device-version | endtime | environmental-history
| exception-log | kernel-trace | obfl-history | obfl-logs | stack-trace | starttime |
status} [> file | | type]
```

シンタックスの説明

boot-uptime	OBFL ブートと動作時間情報を表示します。
device-version	OBFL デバイスのバージョン情報を表示します。
endtime	形式 <i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i> で指定された終了時刻までの OBFL ログを表示します。
environmental-history	OBFL 環境履歴を表示します。
exception-log	OBFL 例外ログを表示します。
kernel-trace	OBFL カーネル トレース情報を表示します。
obfl-history	OBFL 履歴情報を表示します。
obfl-logs	OBFL テクニカル サポート ログ情報を表示します。
stack-trace	OBFL カーネル スタック トレース情報を表示します。
starttime	形式 <i>mm/dd/yy-HH:MM:SS</i> で指定された開始時刻からの OBFL ログを表示します。
status	OBFL ステータスがイネーブルであるかディセーブルであるかを表示します。
> file	(任意) 出力をファイルにリダイレクトします。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
 type	(任意) 出力にフィルタを適用します。詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

starttime キーワードと **endtime** キーワードの日付および時刻の引数は、月/日/年 (*mm/dd/yy*)、ハイフン、24 時間形式の時間:分:秒 (*HH:MM:SS*) の順で入力します。たとえば、次のように入力します。

- **starttime** 03/17/08-15:01:57
- **endtime** 03/18/08-15:04:57

file で有効な値は次のとおりです。

- **bootflash:**

- **ftp:**
- **scp:**
- **sftp:**
- **tftp:**
- **volatile:**

type で有効な値は次のとおりです。

- **begin [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行で始まります。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **count [> file || type]** : 一致する行をカウントします。
- **egrep | grep print-match** : Egrep または Grep です。Egrep は、grep よりも高度な正規表現構文を使用して、一致するテキストの行を検索します。grep は 1 つまたは複数の正規表現に一致するテキストの行を検索し、一致する行だけを出力します。
 - **-A num** : すべての一致行の後に、指定した行数のコンテキストを出力します。有効な範囲 : 1 ~ 999。
 - **-B num** : すべての一致行の前に、指定した行数のコンテキストを出力します。有効な範囲 : 1 ~ 999。
 - **-c** : 一致行の数だけを出力します。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-n** : 各行番号の後にそれぞれの一致内容を出力します。
 - **-v** : *word* 引数に一致するものがない行だけを出力します。
 - **-w** : 語が完全に一致する行だけを出力します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **exclude [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行を除外します。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **head [-n num]** : ストリーム エディタです。オプションの **-n num** キーワードと引数を使用すると、出力する行数を指定できます。有効な範囲 : 0 ~ 2147483647。
- **include [-i] [-x] [word]** : テキストに一致する行を含めます。
 - **-i** : 文字列を比較するときに、大文字小文字の違いを無視します。
 - **-x** : 行全体が一致する行だけを出力します。
 - **word** : 表現を指定します。
- **last [num]** : 出力する最後の行を表示します。オプションの *num* で、出力する行数を指定します。有効な範囲 : 0 ~ 9999。
- **less [-E | -d]** : ファイルの最後で終了します。
 - **-E** : (任意) ファイルの最後で終了します。

- **-d** : (任意) ダム ターミナルを指定します。
- **no-more** : コマンド出力の割付をオフにします。
- **sed command** : ストリーム エディタ
- **wc** : 語、行、文字数をカウントします。
 - **-c** : (任意) 出力する文字数を指定します。
 - **-l** : (任意) 出力する行数を指定します。
 - **-w** : (任意) 出力する語数を指定します。
 - **>** : (任意) ファイルにリダイレクトします。
 - **|** : フィルタにコマンド出力をパイプします。

このコマンドを使用して、システム ハードウェアから OBFL データを表示します。OBFL 機能はデフォルトでイネーブルになっており、シスコ ルータまたはスイッチにインストールされているハードウェア カードまたはモジュールの問題の診断に役立つ動作温度、ハードウェア動作時間、中断、その他の重要なイベントとメッセージを記録します。データのログは、不揮発性メモリに保存されるファイルに作成されます。オンボード ハードウェアが起動すると、監視されている各領域で最初のレコードが作成され、後続のレコードの基準値となります。

OBFL 機能は、継続的なレコードの収集と古い（履歴）レコードのアーカイブで循環更新スキームを提供し、システムに関する正確なデータを保証します。データは、測定と継続ファイルのサンプルのスナップショットを表示する継続情報の形式、または収集したデータに関する詳細を提供する要約情報の形式で記録されます。履歴データが利用できない場合は、「No historical data to display」というメッセージが表示されます。

例

次に、OBFL ブートと動作時間情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard boot-uptime
Sun Nov  9 06:11:59 2008:  Boot Record
-----
Boot Time.....:  Sun Nov  9 06:11:58 2008
Slot Number.....:  1
Serial Number.....:  FLC12280050
Bios Version.....:  v1.2.0(06/19/08)
Firmware Version...:  4.0(1a)N1(1) [build 4.0(1a)N1(1)]
```

表 7-1 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 7-1 show logging onboard boot-uptime コマンドの出力

フィールド	説明
Boot Time	ブートが発生した時刻
Slot Number	スロット番号
Serial Number	モジュールのシリアル番号
Bios Version	プライマリ Binary Input and Output System (BIOS) のバージョン
Firmware Version	ファームウェアのバージョン

show logging onboard

次に、OBFL ログイン デバイス情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard device-version
-----
OBFL Data for
  Module: 1
-----

Device Version Record
-----
Timestamp                Device Name      Instance Hardware Software
                        Num   Version  Version
-----
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           2         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           3         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           4         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           5         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           6         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           7         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           8         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS           9         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          10         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          11         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          12         2         0
Sun Nov  3 07:07:00 2008  GATOS          13         2         0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  ALTOS           0         2         0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  GATOS           0         2         0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  GATOS           1         2         0
Mon Nov  4 00:15:08 2008  GATOS           2         2         0
```

表 7-2 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 7-2 show logging onboard device-version コマンドの出力

フィールド	説明
Timestamp	日、日付、時刻
Device Name	デバイス名
Instance Num	インスタンス数
Hardware Version	ハードウェア デバイスのバージョン
Software Version	ソフトウェア デバイスのバージョン

次に、OBFL 履歴情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard obfl-history
```

show logging onboard obfl-history コマンドは、次の情報を表示します。

- OBFL が手動でディセーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL が手動でイネーブルにされたときのタイムスタンプ
- OBFL データが手動で消去されたときのタイムスタンプ

次に、OBFL カーネル スタック トレース情報を表示する例を示します。

```
switch# show logging onboard stack-trace
```

show logging onboard stack-trace コマンドは、次の情報を表示します。

- 秒単位の時間

- マイクロ秒単位の時間
- エラーを説明する文字列
- 現在のプロセス名と ID
- カーネル ジフィー
- スタック トレース

関連コマンド

clear logging onboard	永続ログの OBFL エントリを消去します。
hw-module logging onboard	エラーのタイプに基づいて OBFL エントリをイネーブルまたはディセーブルにします。

show logging server

Syslog サーバ コンフィギュレーションを表示するには、**show logging server** コマンドを使用します。

show logging server

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、Syslog サーバ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging server
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging server	リモート Syslog サーバを設定します。

show logging session status

ロギングセッションステータスを表示するには、**show logging session status** コマンドを使用します。

show logging session status

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ロギングセッションステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging session status
```

show logging status

ロギング ステータスを表示するには、**show logging status** コマンドを使用します。

show logging status

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ロギング ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show logging status
```

show logging timestamp

ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示するには、**show logging timestamp** コマンドを使用します。

show logging timestamp

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show logging timestamp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging timestamp	ロギング タイムスタンプの詳細を設定します。

show ntp peer-status

ネットワーク タイム プロトコル ピアのステータスを表示するには、**show ntp peer-status** コマンドを使用します。

show ntp peer-status

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは必要ありません。

例 次に、NTP のピア ステータスを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp peer-status
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ntp peers	NTP ピアに関する情報を表示します。

show ntp peers

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) ピアに関する情報を表示するには、**show ntp peers** コマンドを使用します。

show ntp peers

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、NTP ピアに関する情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp peers
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ntp peer-status	NTP ピアに関するステータス情報を表示します。

show ntp statistics

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) 統計情報を表示するには、**show ntp statistics** コマンドを使用します。

```
show ntp statistics {io | local | memory | peer} {ipaddr address | name name1 [..nameN]}
```

シンタックスの説明

io	入出力の統計情報を表示します。
local	ローカル NTP で保持されるカウンタを表示します。
memory	メモリ コードに関連した統計カウンタを表示します。
peer	ピアのピア単位統計カウンタを表示します。
ipaddr address	設定された IPv4 または IPv6 アドレスを持つピアの統計情報を表示します。IPv4 アドレスの形式は、ドット付き 10 進の x.x.x.x です。IPv6 アドレスの形式は、16 進の A:B::C:D です。
name name1 [..nameN]	名前を指定した 1 つ以上のピアの統計情報を表示します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、NTP の統計情報を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp statistics local
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear ntp statistics	NTP 統計情報を消去します。

show ntp timestamp-status

ネットワーク タイム プロトコルのタイムスタンプ情報を表示するには、**show ntp timestamp-status** コマンドを使用します。

show ntp timestamp-status

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、NTP タイムスタンプ ステータスを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ntp timestamp-status
```

システム メッセージ ログイング ファシリティ

表 7-3 に、システム メッセージ ログイング コンフィギュレーションで使用できるファシリティの一覧を示します。

表 7-3 システム メッセージ ログイング ファシリティ

ファシリティ	説明
aaa	aaa Syslog メッセージのレベルを設定します。
aclmgr	aclmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
adjmgr	隣接関係マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
afm	afm Syslog メッセージのレベルを設定します。
all	すべてのファシリティのレベルを設定します。
altos	Syslog レベルを割り当てます。
arp	ARP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
auth	認証システムのレベルを設定します。
authpriv	認証 (プライベート) システムのレベルを設定します。
bootvar	bootvar のレベルを設定します。
callhome	Callhome Syslog レベルです。
capability	mig utils デーモンの Syslog レベルを設定します。
cdp	CDP のログイング レベルを設定します。
cert-enroll	Cert-enroll Syslog レベルです。
cfs	CFS のログイング レベルを設定します。
clis	CLIS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
core	コア デーモン Syslog レベルです。
cron	Cron/ファシリティのレベルを設定します。
daemon	システム デーモンのレベルを設定します。
dcbx	dcbx Syslog メッセージのレベルを設定します。
device-alias	デバイス エイリアス分配サービスの Syslog レベルを設定します。
dstats	delta 統計情報 Syslog レベルです。
epp	EPP Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpc	ethpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
ethpm	ethpm Syslog メッセージのレベルを設定します。
evmc	evmc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fabric_start_cfg_mgr	fabric start cfg mgr Syslog レベルです。
fc2d	fc2d Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcdomain	fcdomain Syslog メッセージのレベルを設定します。
fens	ネーム サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
fcpc	fcpc Syslog メッセージのレベルを設定します。
fcs	FCS の Syslog フィルタ レベルを設定します。
fdmi	Fabric-Device Management Interface (FDMI) のログイング レベルを設定します。

表 7-3 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
feature-mgr	機能マネージャの Syslog レベルです。
flogi	flogi Syslog メッセージのレベルを設定します。
fs-daemon	fs デーモン Syslog レベルです。
fspf	FSPF Syslog レベルです。
ftp	ファイル転送システムのレベルを設定します。
fwm	fwm Syslog メッセージのレベルを設定します。
gatos	Gatos Syslog レベルです。
im	im Syslog メッセージのレベルを設定します。
kernel	カーネルのレベルを設定します。
l3vm	L3VM の Syslog フィルタ レベルを設定します。
license	ライセンス システム Syslog レベルです。
local0	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local1	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local2	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local3	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local4	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local5	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local6	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
local7	ローカル ユース デーモンのレベルを設定します。
lpr	ライン プリンタ システムのレベルを設定します。
mail	メール システムのレベルを設定します。
monitor	イーサネット スパン Syslog メッセージのレベルを設定します。
news	USENET ニュースのレベルを設定します。
nohms	nohms Syslog メッセージのレベルを設定します。
nqosm	nqosm Syslog メッセージのレベルを設定します。
ntp	NTP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
pfm	pfm Syslog メッセージのレベルを設定します。
pktmgr	パケット マネージャの Syslog フィルタ レベルを設定します。
plugin	plugin Syslog メッセージのレベルを設定します。
port	ポート Syslog メッセージのレベルを設定します。
port-channel	EtherChannel Syslog メッセージのレベルを設定します。
qd	qd Syslog メッセージのレベルを設定します。
radius	RADIUS Syslog レベルです。
rdl	RDL のログイング レベルを設定します。
res_mgr	res_mgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
rib	rib のレベルを設定します。
rlir	RLIR のレベルを設定します。
rscn	RSCN のレベルを設定します。

表 7-3 システムメッセージロギングファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
san-port-channel	san-port-channel Syslog メッセージのレベルを設定します。
scsi-target	SCSI ターゲットデーモン Syslog レベルです。
security	セキュリティ Syslog レベルです。
session	セッションマネージャ Syslog メッセージのレベルを設定します。
sifmgr	sifmgr Syslog メッセージのレベルを設定します。
spanning-tree	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
stp	stp Syslog メッセージのレベルを設定します。
syslog	内部 Syslog メッセージのレベルを設定します。
sysmgr	システムマネージャの Syslog レベルです。
tcpudp	TCPUDP の Syslog フィルタ レベルを設定します。
track	トラック Syslog メッセージのレベルを設定します。
urib	URIB の Syslog フィルタ レベルを設定します。
user	ユーザプロセスのレベルを設定します。
uucp	Unix-to-Unix コピー システムのレベルを設定します。
vlan_mgr	VLAN Syslog メッセージのレベルを設定します。
vmm	vmm Syslog メッセージのレベルを設定します。
vsan	Virtual Storage Area Network (VSAN; 仮想 SAN) Syslog レベルです。
vshd	vshd のロギング レベルを設定します。
wwnm	WWN マネージャの Syslog レベルを設定します。
xml	XML エージェント Syslog レベルです。
zone	ゾーン サーバの Syslog フィルタ レベルを設定します。
zschk	zschk Syslog メッセージのレベルを設定します。